

※本資料は、第二回事業説明会前に地域の皆様に配布した資料です。

## 前回説明会の議事要旨

### 1 開催概要

#### 【町田市側】

日 時	平成 27 年 9 月 8 日（火曜日）午後 7 時 00 分～午後 9 時 30 分
場 所	町田市南市民センター内ホール
参加者数	63 名

#### 【相模原市側】

日 時	平成 27 年 9 月 18 日（金曜日）午後 7 時 00 分～午後 9 時 30 分
場 所	相模原市中和田自治会館
参加者数	45 名

### 2 主なご質問・ご意見と都の回答（要旨） ※上記 2 回の説明会を取りまとめています。

#### (1) 事業計画について

ご質問・ご意見	都の回答
西田スポーツ広場に 15 万 m <sup>3</sup> の調節池を整備する必要性はあるのか。	時間 65 ミリ降雨に対応するため、境川の東京都管理区間で約 76 万 m <sup>3</sup> の調節池を適切な場所に分散して配置することが必要です。今回町田市の協力により公有地を確保できたことから、当該地に整備することとしました。
平成 20 年 8 月洪水による被害額は。	本日はデータがなくお答えできないため、後日配布する議事録に回答を記載します。 【本議事要旨での回答】 境川流域全体での一般資産の被害額は、河川のはん濫以外による浸水も含め、町田市内で約 5 億 2 千万円、相模原市内で約 1 億 7 千万円です。なお、これには道路や鉄道、ライフラインなどへの被害額は含まれていません。
時間 65 ミリ以上の降雨も考慮して検討すべきでないか。	境川流域全体に時間 65 ミリの雨が降る想定で計画しているため、局地的かつ短時間の集中豪雨であれば、時間 65 ミリ以上の降雨にも対応は可能です。ただし、流域全体に計画を超えるような雨が降れば対応できないため、ハザードマップの公表や水位情報の提供といったソフト対策を合わせて実施しています。

#### (2) 工事全般について

ご質問・ご意見	都の回答
工事車両の通行ルートは。	大型車が通行できるルートを検討し、特定の地域に集中してご負担をお掛けしないよう、町田市側と相模原市側の 2 つのルートを選定しました。
土砂を搬出するダンプカーや生コンクリートを運ぶミキサー車は、1 日何台(1 時間何台)、どれくらいの期間通るのか。	土砂搬出時のダンプカーは 1 日最大約 100 台（100 台が来て、100 台が出ていく）、コンクリート打設時のミキサー車は約 80 台（80 台が来て、80 台が出ていく）と試算しています。1 日 100 台は、1 時間当たり 14 台に相当します。土砂の搬出期間は I 期・II 期工事合せて約 3 年、コンクリート打設は約 1 年 4 カ月と試算しています。 これらの車両を、町田市側と相模原市側の 2 つのルートに分散して通行させます（試算上、1 つのルートに 1 時間当たり 14 台が通過することになります）。

ご質問・ご意見	都の回答
ベルトコンベアで土砂を搬出することはできないのか。	ベルトコンベア案については検討しましたが、設置距離が非常に長く、境川に設置する場合は川の中に柱を立てる必要があり治水上大きな課題となります。また、土砂をダンプへ積み替えるための用地確保やベルトコンベアの運転による騒音・振動・日影など課題が多いため、採用は困難です。
工事の時間帯と曜日は。また、工事時間は、作業員が車で入ってくる時間を含めたものか。	工事時間は、平日の9時から17時までを想定しています。作業員が車で来る時間は入っていません。
分割施工ではなく、工期が短い一括施工とすべきではないか。	一部供用開始による治水効果の早期発現や、工事中の広場一部利用が可能なことから、分割施工としました。
(急な上り坂を含め)ダンプが通ることによる、騒音、振動、排気ガスの対策は。	低速での走行等により対応します。 なお、排ガスについては東京都でディーゼル車の規制を行っており、これに適合した車両を使用します。
搬出入路における住民や学童の安全対策は。	工事車両の低速走行、誘導員の配置のほか、皆様との話し合いにより場合によっては通学時間中の通行をやめるなど検討していきます。
工事中、金山橋やサイクリングロードは通行止めになるのか。	金山橋が通れなくなる場合は、仮橋を設置し通路を確保する予定です。サイクリングロードについては工事用の仮橋設置に伴い影響が出るため、今後利用状況を調査し、適切な位置に仮のルートを確保していきます。
工事によって井戸が涸れた場合、速やかに復旧してもらえるのか。	遮水性の高い土留壁の設置により、地下水の低下を防ぐとともに、周辺の井戸分布調査を行い、地下水位の変化を調査します。もし、地下水位の低下が発生した場合は原因を調査し、対策を行います。工事による被害が発生した場合には、損害賠償等を行っていきます。

### (3) その他

ご質問・ご意見	都の回答
工事完了後の上部利用計画は。	現時点では未定です。町田市と地元の方の話し合いにより決めていくことと考えています。
現在ある公衆トイレは、完成後どうなるのか。	トイレについては、工事期間中を含め、今後、町田市と調整します。
説明会は、会社員が参加できるよう、土曜休日に開催すべきである。説明会のチラシに、工事内容が分かる情報を記載すべきである。	今後の説明会開催にあたっては考慮いたします。
今回の説明会だけでは十分説明したことにはならないのではないか。	今後、施工方法等について検討して改めて説明する機会を設けさせていただきます。

以上

※本資料は、第一回事業説明会で配布した資料です。

(9月8日町田市南市民センター内ホール、9月18日相模原市中和田自治会館で開催、各会場同じ資料を配布)

## 境川中流調節池(仮称)について

平成 27年 9月 8日(火)

平成 27年 9月18日(金)

東京都建設局河川部

東京都南多摩東部建設事務所

### <問い合わせ先>

○調節池の計画等に関すること

東京都建設局河川部計画課

TEL 03-5320-5415

○現地での調査に関すること

東京都南多摩東部建設事務所工事課

TEL 042-720-8644

## 1. 境川の整備状況

<神奈川県管理区間>  
改修工事や遊水地の整備を進めているが、整備完了までには、長期間を要する見込み。

④相鉄線下流部改修工事(実施中)



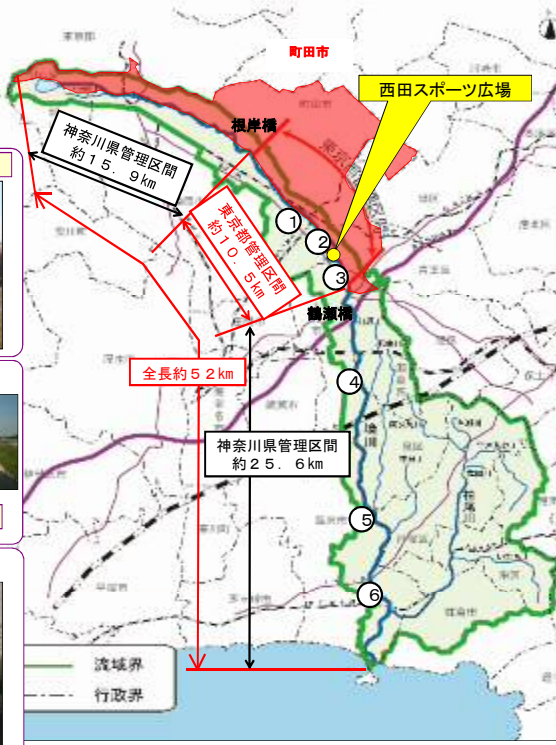
⑤境川遊水地(整備済)



俣野地区 15万m<sup>3</sup>  
下飯田地区 57万m<sup>3</sup>  
今田地区 32万m<sup>3</sup>

計104万m<sup>3</sup>

⑥藤沢橋付近(未整備)



<東京都管理区間>  
・護岸整備はほぼ完了。  
(護岸整備率97%(H26年度末))  
・旧河川敷を利用した遊水池なども整備。  
・下流側県管理区間が未整備のため、河底を十分に掘り下げられない。

①護岸整備状況(幸延寺橋付近)



②③遊水池の整備状況

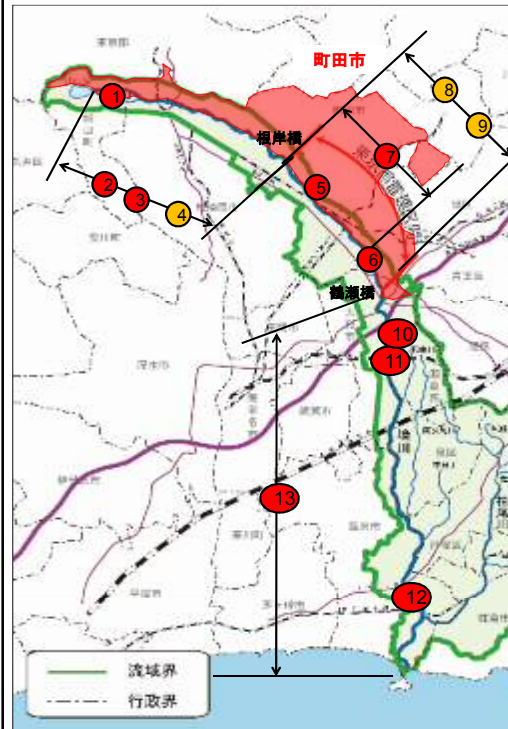
<鶴金橋上流付近(約15,500m<sup>3</sup>)>



<鶴間1号橋付近(約7,500m<sup>3</sup>)>



## 2. 今後の整備スケジュール(案)

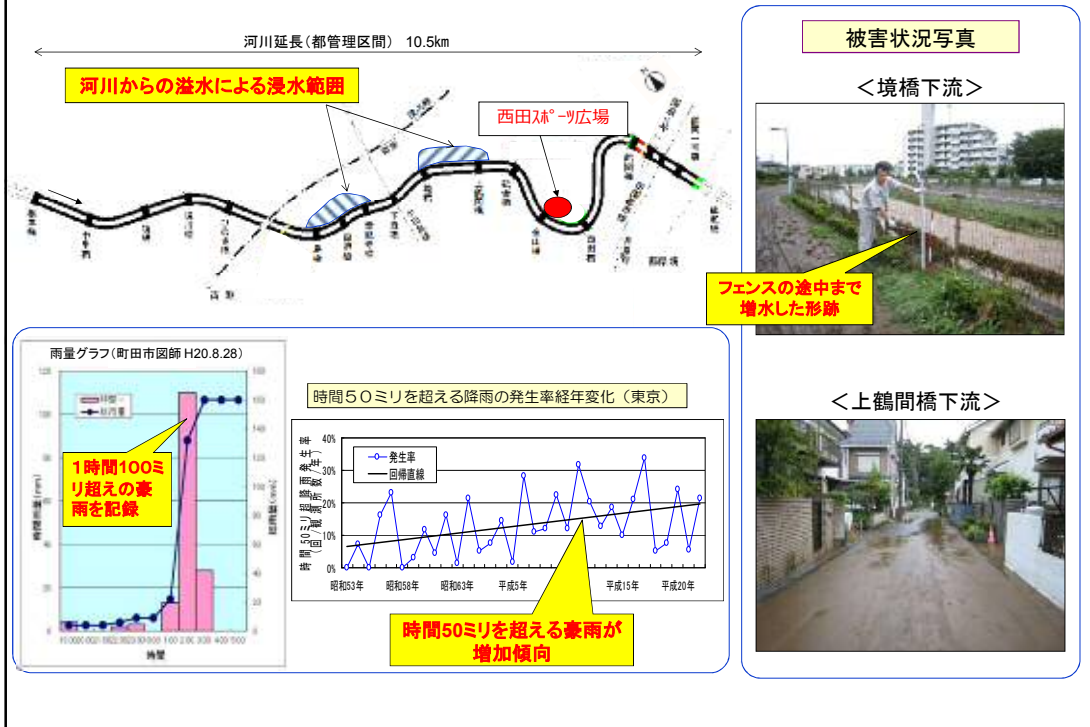


<整備のポイント>

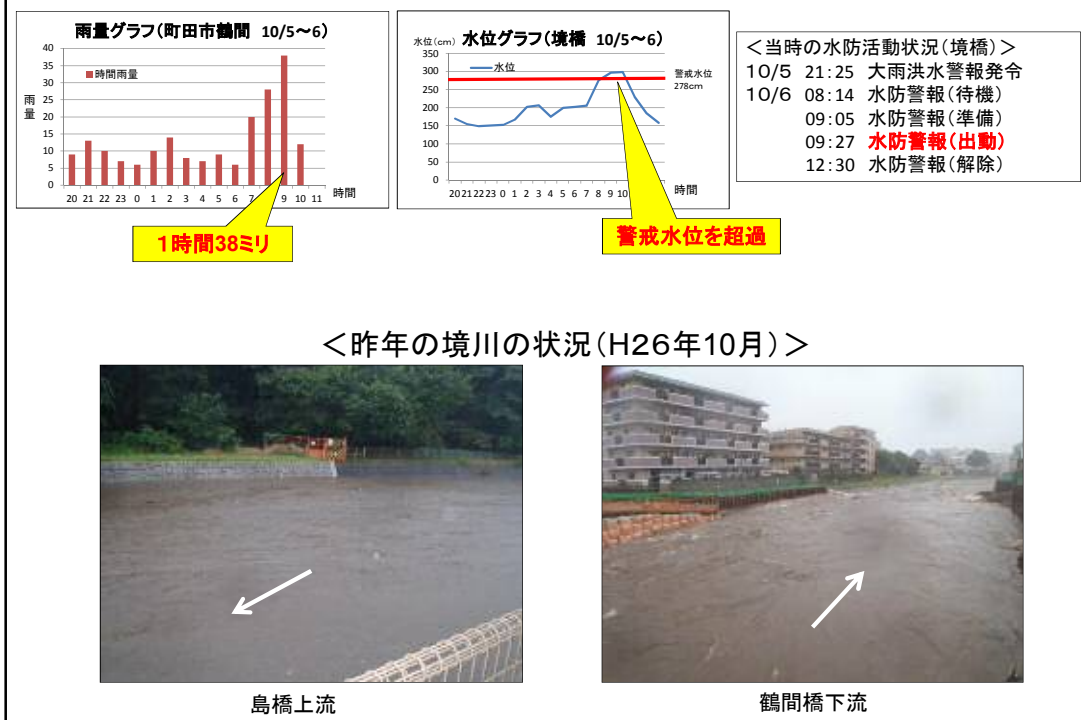
- ・調節池整備及び狭さく部の解消を河道に先行して実施し、治水安全度の早期向上を実施。
- ・河道整備は計画期間継続的に実施。
- ・県下流区間整備完了後、都、県上流区間の河床掘削を行い、30年で目標整備水準を達成。

自治体	項目	前期(1~10年)	中期(11~20年)	後期(21~30年)
県(上流)	①風間遊水地	[Red bar]		
	②護岸整備	[Red bar]		
	③河床掘削	[Red bar]		
都	うち都の早期整備要望か所	①風間遊水地	④暫定河床掘削	
	⑤境川中流第二調節池(仮称)	[Red bar]		
	⑥境川中流調節池(仮称)	[Red bar]		
	⑦その他調節池	[Red bar]		
	⑧暫定河床掘削	[Dashed yellow bar]		
	⑨河床掘削(都区間全域)	[Yellow bar]		
県(下流)	⑩相鉄線上流遊水地	[Red bar]		
	うち都の早期整備要望か所	⑪相鉄線狭さく部	⑫藤沢橋狭さく部	
	⑪相鉄線狭さく部	[Red bar]		

### 3. H20年8月豪雨による被害状況



### 4. H26年10月の出水状況(台風18号)



## 5. 目標整備水準のレベルアップと整備の考え方

これまでの目標整備水準  
1時間50ミリ降雨



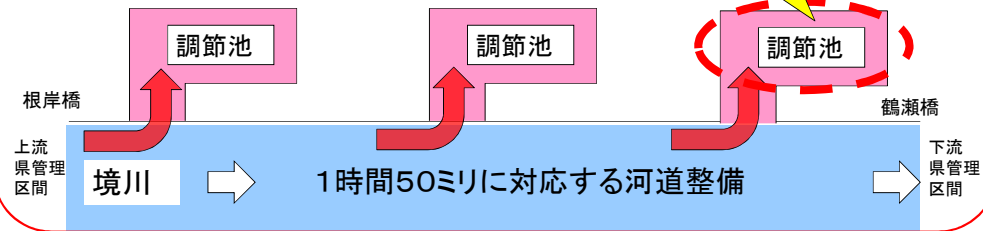
新たな目標整備水準  
1時間65ミリ降雨

中小河川における都の整備方針策定 (H24.11)  
東京都豪雨対策基本方針改訂 (H26.6)  
境川水系河川整備計画策定 (H27.4)

<調節池分散設置のイメージ>

総量約76万m<sup>3</sup>

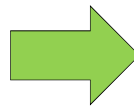
境川中流調節池(仮称)  
⇒西田スポーツ広場



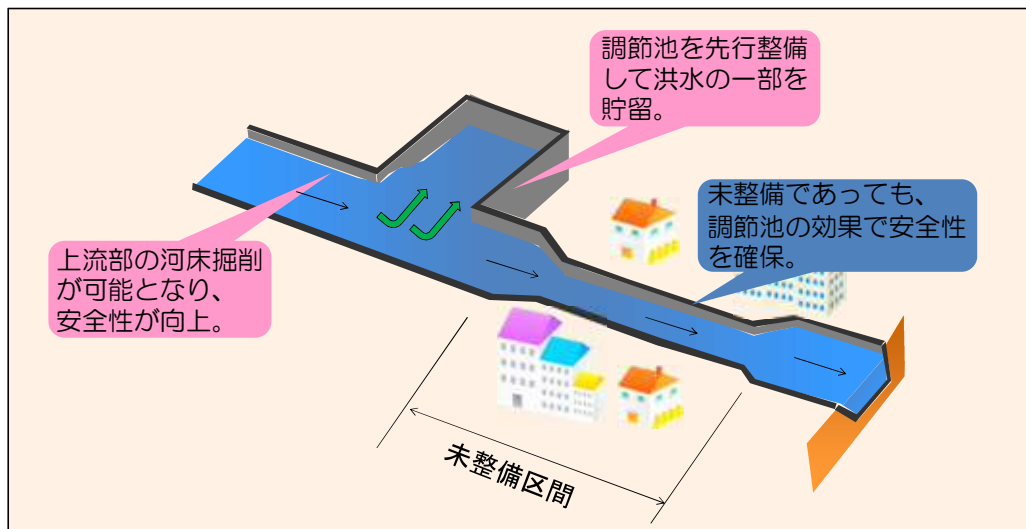
- 1時間50ミリまでの降雨は、河道で対応。
- 1時間50ミリを超える降雨は、川沿いに分散設置する「調節池」にためることで、1時間65ミリに対応。
- 調節池は公園など公共空間を活用し、効率的、効果的に整備
- この整備により、平成20年8月の被害も解消することが可能

## 6. 調節池の先行整備効果

1時間65ミリ計画に位置付けられた調節池を先行整備

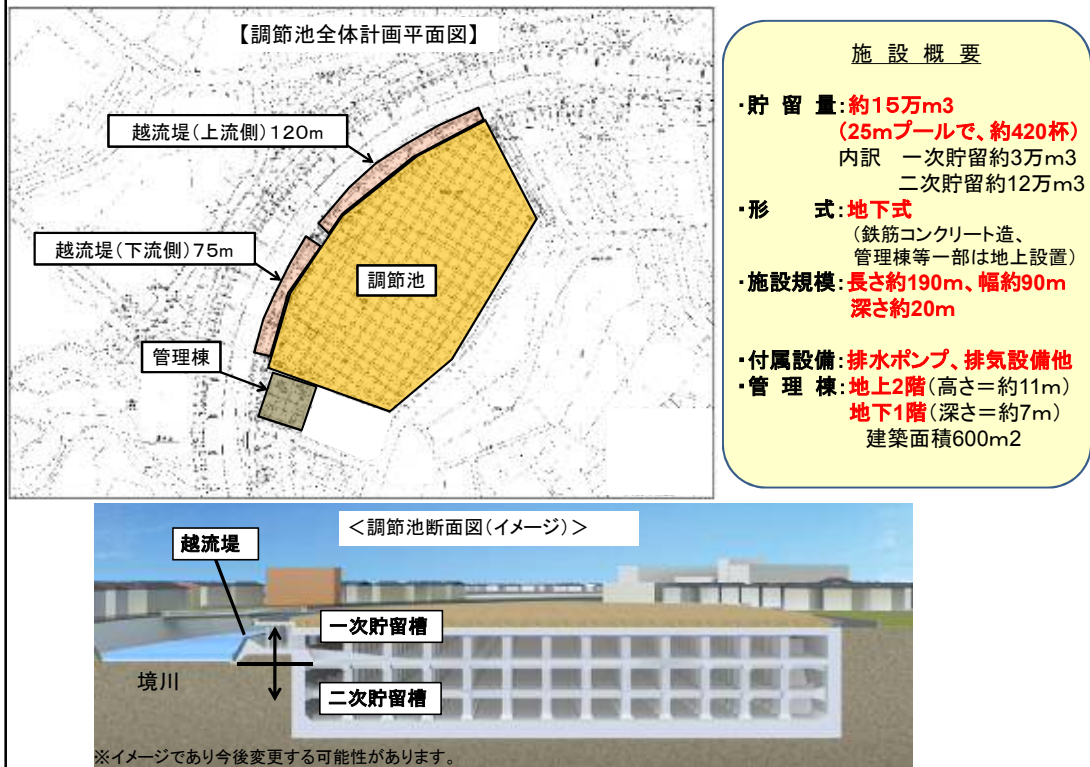


下流県区間の整備を待たずに、都区間の治水安全度を早期に向上





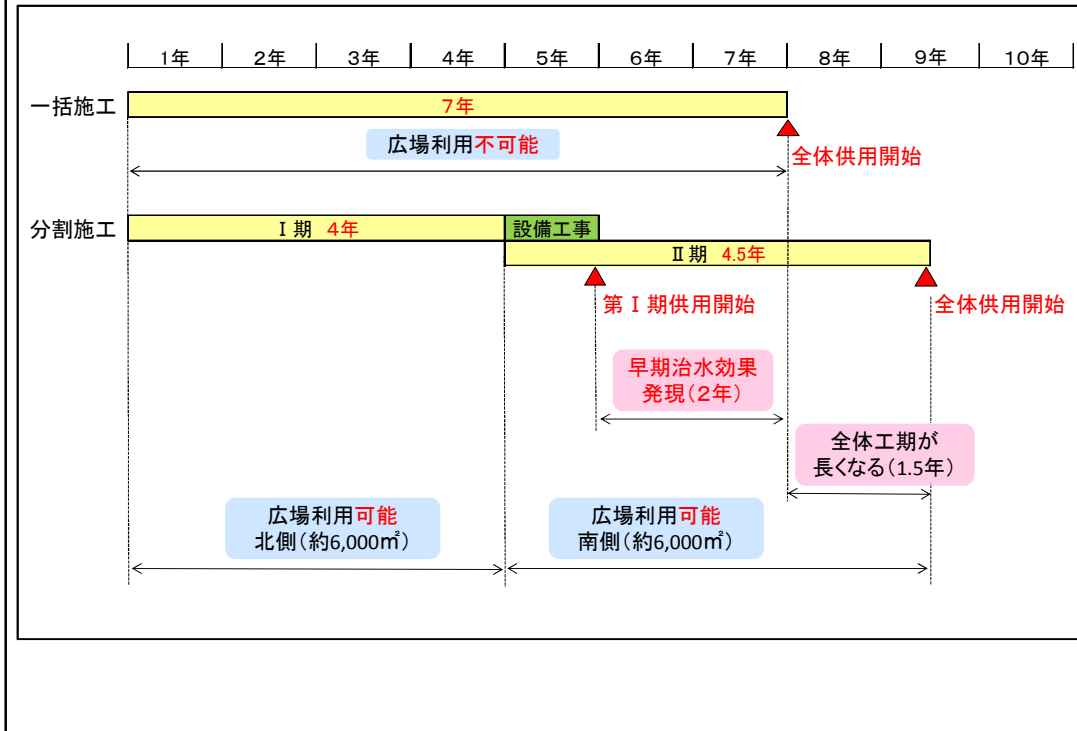
## 7. 境川中流調節池(仮称)の概要



## 8. 施工方法の比較(一括施工、分割施工)

	一括施工	分割施工
イメージ	<p>調節池全体を一括して施工</p>	<p>調節池をI期、II期に分割</p> <p>第I期 第II期</p>
工法の概要	・広場全面を使用し、調節池全体を一括して施工する施工方法。	・広場を分割し、調節池をI期、II期に分割して施工する施工方法。
工事費用	約150億円	約155億円
工期	約7年	約8.5年 (I期約4年 + II期約4.5年)

## 9. 工程比較(一括施工、分割施工)



## 10. 施工方法の比較と選択

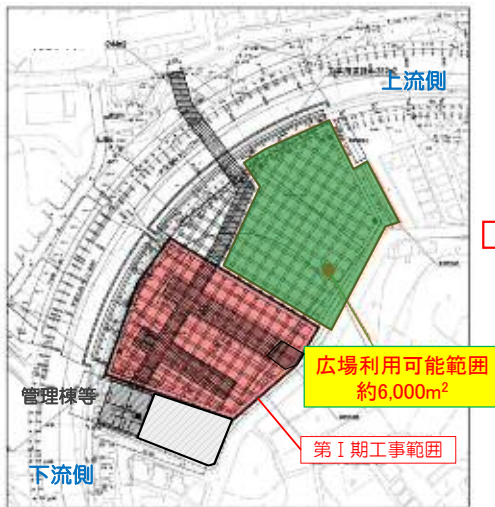
	一括施工	分割施工
被害軽減効果	△ 効果発現に時間がかかる。 (8年目から)	◎ 一部効果の早期発現が可能 (6年目から、約2年の短縮)
経済性	○ より経済的な施工が可能。	△ 費用増は、約5億円程度。
施工性	○ 問題なし。	○ 分割施工に伴う技術的課題はない。
工事による周辺環境への影響 (工事現場周辺、搬出入ルート沿道)	○ 影響期間を短くできる。	△ 影響期間が若干長くなる。(1.5年程度) (対応) ・十分な騒音、振動対策を実施。 ・搬出入ルートの分散化により影響度合を低減。
広場利用への影響 ・夏祭りなどのイベント ・少年野球、サッカー、ゲートボールなど	× 不可 (代替地確保は困難)	△ 部分可 (半面となるが、継続利用が可能。利用者調整が必要。)

以上を総合的に判断 今回工事では**分割施工**を選択



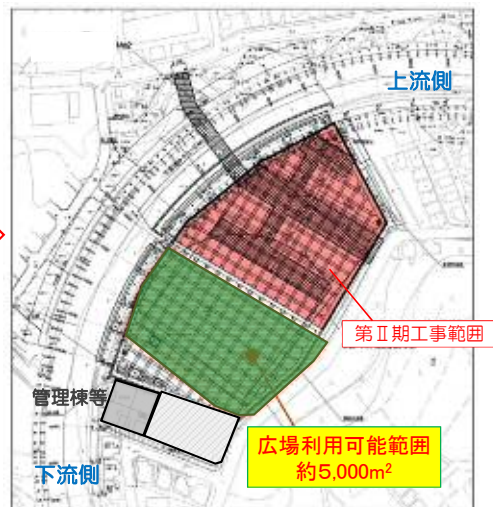
## 11. 分割施工の工事手順

### <第Ⅰ期工事>



- 下流側の半分を施工
- 上流側の敷地は広場として継続利用可能 (約6,000m<sup>2</sup>)
- I 期工事完了後、下流側調節池を供用開始

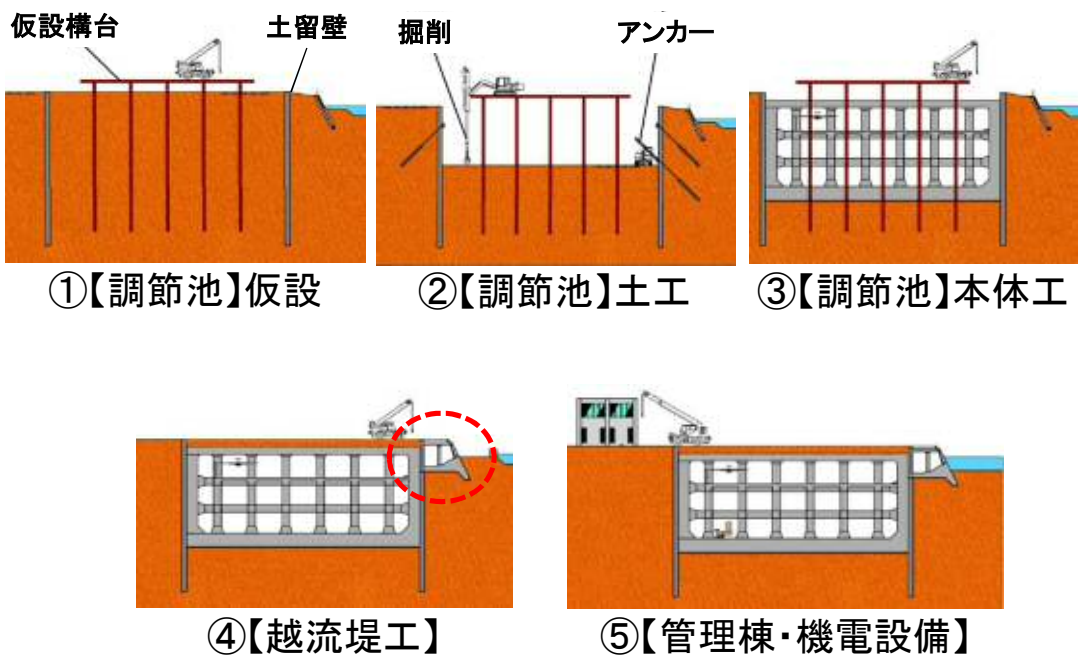
### <第Ⅱ期工事>



- 上流側の半分を施工
- 完成した下流側調節池の上部を広場として利用可能 (約5,000m<sup>2</sup>)
- II 期工事完了後、調節池全体の供用開始
- その後、町田市が上部施設を整備

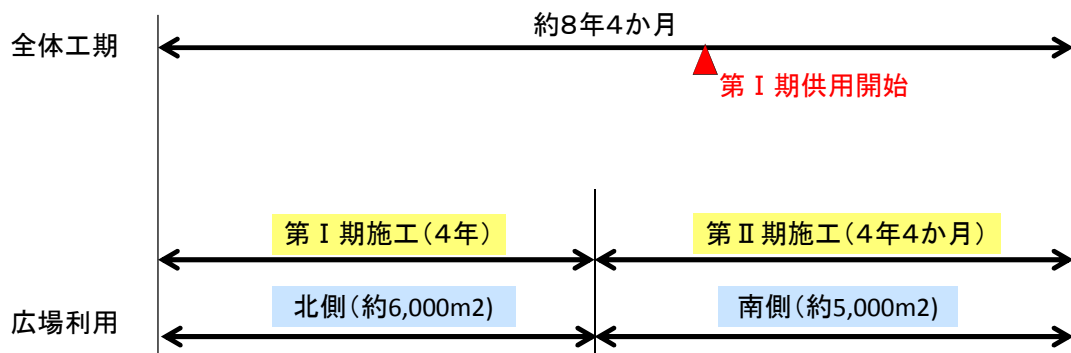
## 12. 主な工事の手順

主な工事の手順は、以下の①～⑤工程となります。



### 13. 工事スケジュール

工 期	1年度目 H28	2年度目 H29	3年度目 H30	4年度目 H31	5年度目 H32	6年度目 H33	7年度目 H34	8年度目 H35	9年度目 H36
準備工	■								
調節池	■					■			
越流堤					■				■
管理棟					■				■
機械設備 電気設備					■				■



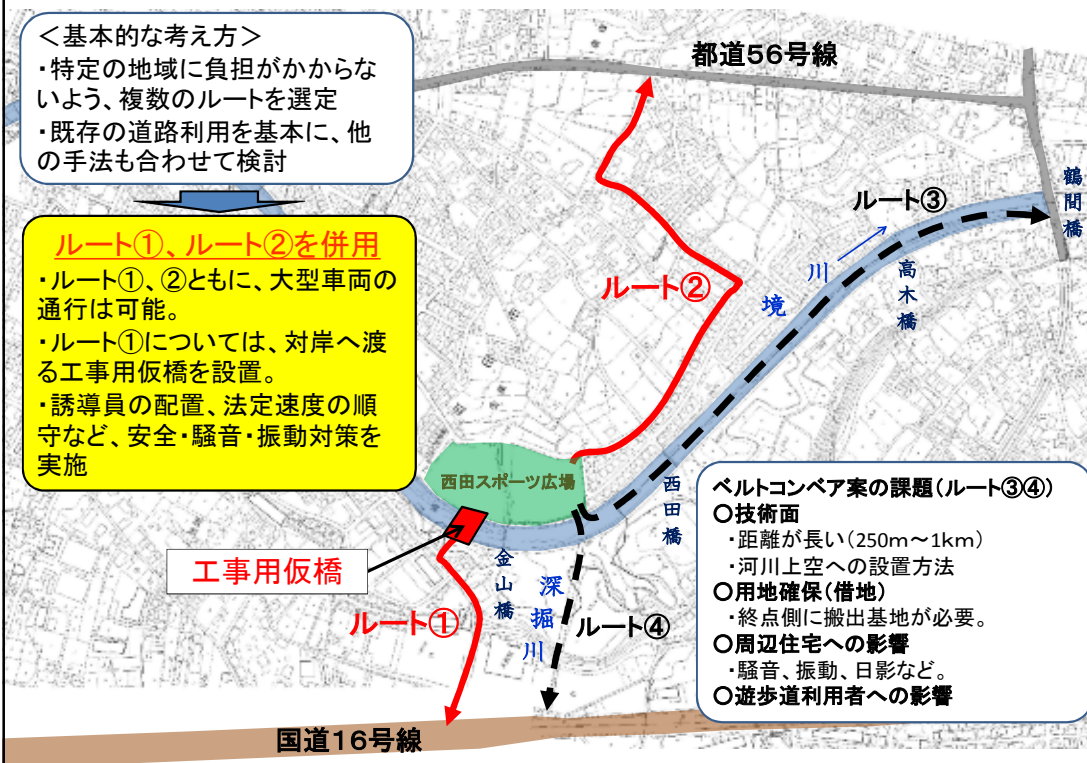
### 14. 搬出入ルートと比較選定

#### <基本的な考え方>

- ・特定の地域に負担がかからないよう、複数のルートを選定
- ・既存の道路利用を基本に、他の手法も合わせて検討

#### ルート①、ルート②を併用

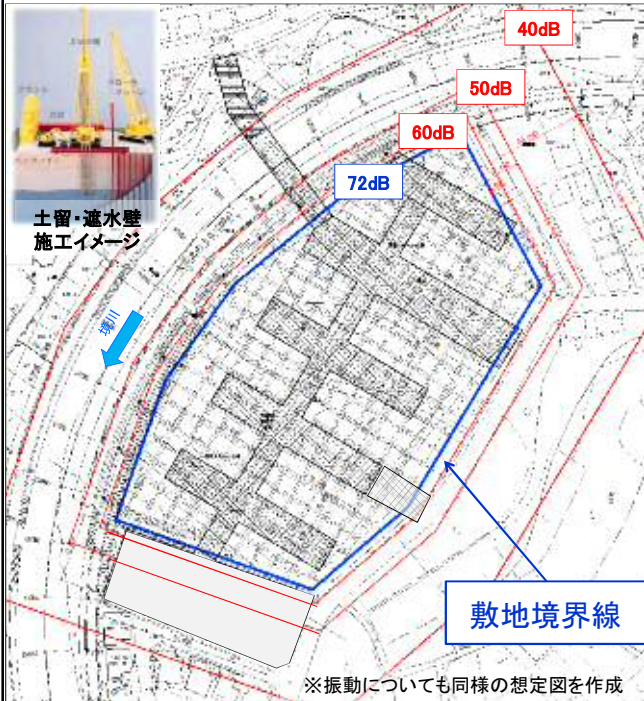
- ・ルート①、②ともに、大型車両の通行は可能。
- ・ルート①については、対岸へ渡る工事用仮橋を設置。
- ・誘導員の配置、法定速度の順守など、安全・騒音・振動対策を実施



#### ベルトコンベア案の課題(ルート③④)

- 技術面
  - ・距離が長い(250m~1km)
  - ・河川上空への設置方法
- 用地確保(借地)
  - ・終点側に搬出基地が必要。
- 周辺住宅への影響
  - ・騒音、振動、日影など。
- 遊歩道利用者への影響

## 15. 騒音・振動対策について



土留・遮水壁施工時の想定騒音図(防音パネル設置時)

### 工事実施前の検討

#### ○騒音発生源となる作業について 騒音レベルを想定

(想定される騒音最大値に対する評価)

- 敷地境界付近で最も周辺に影響があると考えられる**土留・遮水壁施工時**(アースオーガー使用)を想定
- **防音パネル**を設置した状況  
※15dB程度の低減効果あり

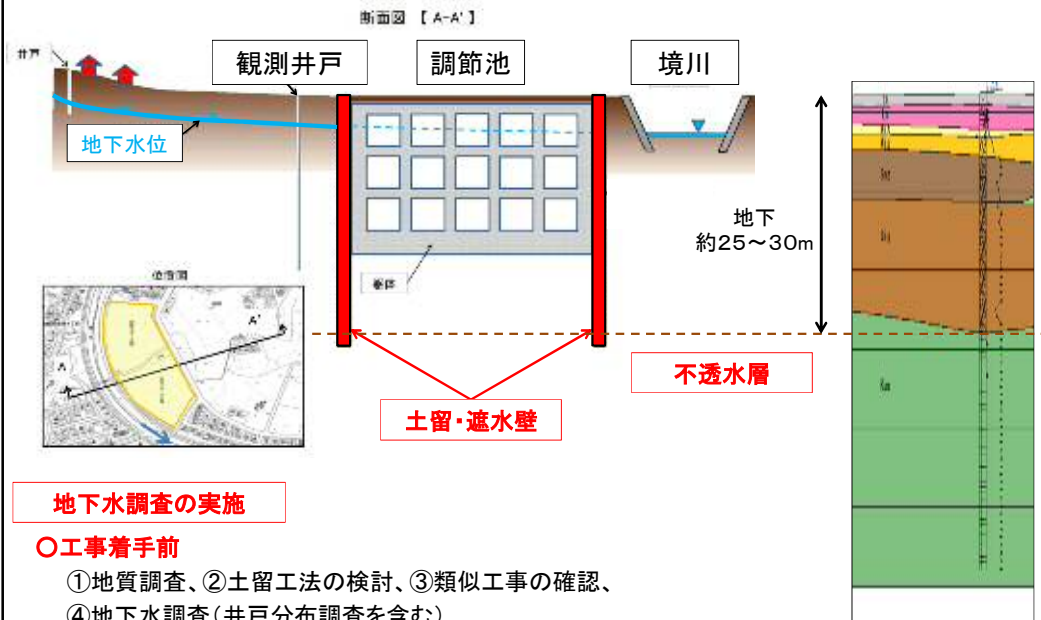
### 工事実施時の対策

#### ○法令に基づき敷地境界において 騒音・振動基準を順守

- 低騒音型・低振動型建設機械を使用
- 防音パネル・防音シート等の設置

建設作業に対する騒音規制の基準  
⇒80~85dB(作業の種類により異なる)  
建設作業に対する振動規制の基準  
⇒65~75dB(作業の種類により異なる)

## 16. 地下水対策について



### 地下水調査の実施

#### ○工事着手前

- ①地質調査、②土留工法の検討、③類似工事の確認、④地下水調査(井戸分布調査を含む)

#### ○工事着手後~工事完了後

- ①地下水調査(一斉観測)、②地下水調査(長期観測)、③水質調査

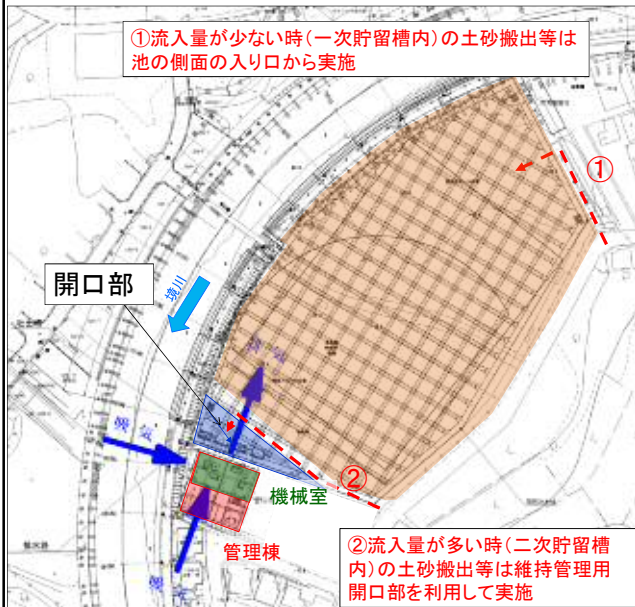
※工事に伴い被害が発生したと判断される場合、損害賠償手続きを行う。

地層断面図  
(地質調査結果より)



## 17. 調節池完成後の維持管理について

<維持管理時の進入ルート等のイメージ>



### 調節池流入に伴う作業

#### ○排水作業

- ・ポンプ数台使用し24時間以内に完了

#### ○調節池内の洗浄及び換気

- ・排水作業後に実施
- ・泥土等は廃棄物として排出処分
- ・換気は南側住宅方向、境川方向から吸気し、公園側に排気
- ・機械室壁に吸音材を貼る等騒音対策を実施

#### ○堆積土砂の搬出

- ・4tトラック、ミニバックホウ等により実施  
(年1~2回程度想定)

### 上記以外の作業

#### ○調節池内の清掃

- ・状況に応じ実施(年1回程度想定)

#### ○構造物の状況確認

#### ○機械・電気通信設備の点検

- ・定期(年12回程度)及び強地震時

#### ○管理棟等施設の清掃

- ・状況に応じて実施

## 18. 工事着手までのスケジュール(予定)

### 工事着手までのスケジュール(予定)

#### 平成26年度

- ・基本設計
- ・地質調査
- ・町会役員、スポーツ利用者団体代表者への事前説明会(10月)

#### 平成27年度

- ・事業説明会(今回)
- ・詳細設計(平成27~28年度)

#### 平成28年度

- ・工事説明会(詳細設計完了後、工事着手前)
- ➡工事着手